波紋

特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンターだより
「波　紋」　第10号
発行人　佐々木武志
題字デザイン・山口正勝

発行所　教育活動総合サポートセンター
〒213-0033　川崎市高津区下作延5-11-8
TEL：044-877-0553　FAX：044-877-0980
E-mail：support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www16.ocn.ne.jp/~snmi/
印　刷　西桜印刷株式会社

創立10周年めをむかえて

NPO法人 教育活動総合サポートセンター
理事長　佐々木　武　志

学校に行きたくても行けずに悩んでいる子ども、勉強についていけない子どもたちに学ぶ場・憩いの場を提供することを目的に、平成16年に「教育活動総合サポートセンター」を設立した。「子たちに力を」を合言葉に、子ども自身が自分の力で課題を解決していく力を身につけるための学習支援を続けてきた。

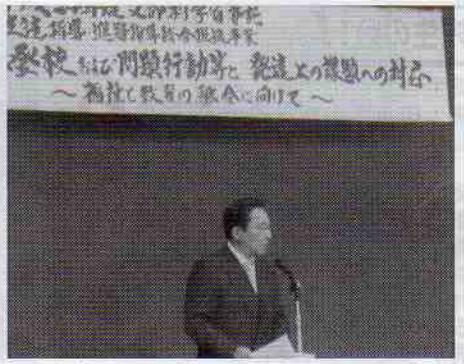
この10年間のサポートセンターの成果をみると、文部科学省の研究委託を受けたことが大きかったように思える。

平成17年から4年間の研究主題は「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究」であった。不登校の状態にある子どもへ心のケアを図りながら学習支援を行うことで、多くの子どもが学校復帰を果たした。

平成21年から2年間の研究は、いじめや非行等あらゆる不適応の状態にある子どもに対象を広げ、支援活動を行った。

平成23年度は研究委託を受けることができなかったが、24年度再び研究委託を受けることができた。

最近の子どもを見ると、発達上の課題や親の生活・養育上の困難・虐待等様々な課題が重複している事例が見られる。これらの課題解決に向けて、研究の副主題を福祉と教育の融合として、横浜国立大学名誉教授　岡田守弘先生の指導を受け研究を進めた。



研究報告会には180人を超す多くの皆さんのご参加、そして、貴重なご意見を数多くいただき、融合に向けて一歩進めることができた。参加いただいた皆さんにお礼を心から申し上げたい。

サポートセンターでは、子どもたちが「明るく・楽しく・元気よく・いきいきとした」活動を願って「輝け☆明日の先生の会」「教育活動サポーター配置事業」「特別支援教育サポーター配置事業」等様々な事業を展開している。10年めをむかえ、気持ちを新たにし、少しでも学校への支援ができるよう、活動を充実させたい。

皆さま方のご支援とご指導をお願いしたい。

25年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、各事業が効果的、具体的に活動できるよう組織機能の一層の充実を図る。

1　活動方針

①基礎基本を重視した学習支援の中で学力の充実を図り、また、様々な体験活動を通して、学校復帰や社会参加促進を支援する。

②家庭・学校・地域および関係機関等との連携を深め、相談活動を中心とした社会福祉活動に努めるとともに、各学校の教育活動の充実発展を支援する。

③一人ひとりの児童生徒が、心豊かにそして生きる力を身につけられるよう支援する。

④組織力の強化と諸活動の充実、幅広い活動会員の受け入れと、賛助会員の拡大を図る。

2　事業計画

学校へ行きたくても行けない子どもたちのために、学習・相談の支援活動を10年前から始めて来た。これらの実践は、平成17年度より6年間にわたる文部科学省の研究を推進することにより、実績を積み上げてきている。この実践研究を基礎として昨年度より外国籍児童生徒の学力向上事業が幸区との連携で始まり、生活困難家庭の児童生徒に対する学力向上、居場所づくり支援が始まった。21年度途中より「川崎区教育支援」（こどもサポート旭町）事業も始まり、すでに活動を開始している「子どもサポート旭町」「こどもサポート南野川」「中原区教育支援」等と一体的な活動を進め不登校児童生徒のみならず、問題行動児童生徒を含めた支援活動に取り組む。

(1)学習指導部

①学習指導
不登校児童生徒の学校復帰をはかるため、児童生徒の特性を生かした指導の充実を図る。

②日本語指導
海外からの帰国児童、外国人へ日本語指導、外国語への支援を図る。

③サイエンスキッズ
実験・実習を通して理科学習の楽しさを味わせる。

④キッズセミナー
生涯学習プラザを会場に「得意な科目はさらに得意に」「疑問、矛盾を解決する自由研究」等多様な講座を開設し個性伸長を図る。

(2)相談・適応指導部

①相談活動
不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒の相談活動を推進する。

②適応指導
・ふれあい活動宿泊体験
不登校児童生徒が心を開き軽度特別支援児童生徒が自ら進んで活動できるよう、子どもに活力をつけたい。
・体験活動
鎌倉遠足、修学旅行を再現したり各種体験をさせたい。

③特別支援
支援事業を充実させていく。特別支援教室の担任経験者、指導主事経験者、行政で対応した経験者の充足を図る。

④学校との連携
児童生徒のサポートセンターでの学習、生活状況の変容等の様子を学校に連絡し、学校との連携を深める。

(3)事業部

①青少年の家・管理運営事業
自主事業の充実・発展に努め、地域・家庭・学校との連携を図る。

②大山街道ふるさと館・管理運営事業
館の管理運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動に職員のノウハウを活用し、市民の幅広い参加を図る。

③こどもサポート南野川・管理指導事業
不登校児童、軽度特別支援児童生徒、反社会的傾向児童生徒の学習支援を図る。

④こどもサポート旭町・管理指導事業
不登校児童生徒、特別支援児童生徒、不適応、問題行動等のある児童生徒対する学習支援及び集団遊戯を通じた学校、社会復帰に向けた支援。

⑤輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指す臨任、非常勤、大学生等が対象。教育に関する様々な課題を具体例を通して学ぶ。年間15日（25講話）、ゼミナール7日を予定。

⑥サポーター配置事業
特別支援、学習支援に年間を通して、学生等を配置する。

⑦学校図書館有効活用
休日、夏期休暇、読書週間等の期間、学校図書館を一般市民や児童生徒に開放し、その施設管理や読書指導を行う。

⑧文化講演会
教職員、PTA、市民向けに文化向上を図る講演会を企画開催する。

⑨各区から受託した事業
昨年度より川崎区、中原区、高津区、宮前区から、子育てに関する事業を受託している。各区民の期待にそうよう、また、各種の問題や課題の未然解決が図れるよう、それぞれの区と綿密な連絡を取りながら事業に推進のあたる。

平成24年度　文部科学省委託研究

主題「不登校および問題行動等と発達上の課題への対応」
～福祉と教育の融合に向けて～

文部科学省委託事業

当サポートセンターでは、個々の子どもが求める学習支援と居場所づくりを進めている。平成24年度の研究はこうした支援や居場所づくりにむけ「子どもの困りは何か、発達上の課題は何か」を調査することから始まり、一人ひとりに向けた指導プログラムによる支援にはいった。支援が進む中で、福祉と教育の連携による成果が顕著な数事例に着目し、その関係機関のかかわりの実態を調査した。その結果日々の実践は、「連携」を超えた「福祉と教育の融合」であることを検証している。

今後は、福祉と教育に加え社会との融合が求められるのではないかと考える。（石原）

実践事例の報告

「どこにも居場所がなく、心に不安を抱えるF女」

この事例は、F女の「学校に戻りたい」という思いを、関係する機関がどのように取り組んだかの報告である。

具体的には、F女の在籍する中学校の校長先生からのF女の学習依頼に端を発する。

F女には、家庭状況等を踏まえ、安心できる居場所と学習環境を意識して対応した。

関係する機関（学校・児童相談所・福祉事務所・サポートセンター）が情報交換し共通理解を図った。その上で各機関がその役割に応じた対応をし行動に移した。

現在、F女は遅刻などをするも学校に通学できている。（片山）

川崎の教師塾

この講座は平成19年度に開講しました。ベテランの先生の大量退職が迫り、学校ではかつて経験したことのない課題を抱えることが予想されました。そんな時に何か学校のお役に立ちたいと考えたのでした。以来6年、多くの志のある先生方に受講していただき、当初の目的は達成できたと考え、講座は休講にいたします。

受講してくださった先生方のご活躍を期待しております。

「輝け☆明日の先生の会」

NPOサポートセンター主管、総合教育センター主催の「輝け☆明日の先生の会」もしっかりと定着してきました。川崎市の教育を目指す臨任・非常勤・学生・社会人等の105人が受講し、笑顔あふれる講座・ゼミを進めてきました。4月から出身者が小中学校の子どもたちの前に立ちます。講座・ゼミを進めるにあたりNPO会員の皆さまには長年培ってきた教師力をフルに発揮いただきご協力に感謝します。今年も活気あふれる充実した会にしていきます。

サポーター配置事業

市内の通常級および特別支援学級の指導体制の充実に向けたサポーター配置事業。今年度は小中全市の学校で申請書が出された。500人を超えるサポーターの中に教員を目指している学生が70%以上を占めている。サポーターの経験が教員採用後に生きて働く力となるはずである。

サポーターの支援はサポーター自身の経験になり子どもにも力がつく。

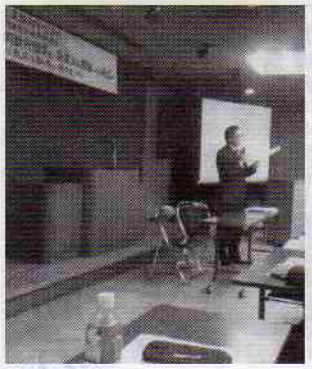
この事業は川崎市独自の行政支援でもありサポーターの登録と学校への紹介等スタッフの奪戦が続いている。

（簗部、對馬、藤田、長澤、大原、渡邊）

研究協議会報告

「研究の経過」および「事例報告」の後、休憩をはさんで全体会で研究協議を行った。

出席者は、159人、教育会館が満席になるほどの盛況ぶりであった。



研究全般についての質疑応答の後、「福祉と教育の融合」という点に焦点を当て協議を進め、福祉や教育に携わる関係機関の方々から、それぞれの機関の持つ役割・連携・融合等々の実際例および見解についてご発言いただいた。

日頃、学校教育を通して児童生徒の支援に携わっている参加者にとっては、専門機関との連携、融合の大切さを改めて認識する機会となったようだ。（本間）

川崎市青少年の家

○子ども仲間づくり「エコチャレンジクラブ」
○子ども運営委員会
○昔遊びプロジェクト（仮称）
○プール開放
○シニア卓球教室
○よちよち歩きの子あつまれ
※おはなし会、リトミック
○放課後おもしろクラブ
※理科、造形教室、お箏であそぼう
○青少年の家フェスタ
さらに発展を願っている。

学ぶ喜び　楽しさ　いっぱいの子たち

給食調理さんをめざして

低学年の時、給食調理員の仕事を見学しました。私たちの給食をつくって大変だと感じました。私の家では、祖母と父と母の3人が交代してつくっています。でも、学校では、約300人分の給食を毎日つくっているからすごと思いました。私たちに喜ばれる料理をつくってくれて、うれしいと思いました。私は、とくにシチューが好きです。レストランよりおいしいものです。

私も子どもたちに喜ばれる給食調理員さんになるのが、今の夢です。

（小4・T・M）

イラストレーターになって活躍

私の夢はイラストレーターになる事です。私は、小さい時から絵を描くのが大好きでした。

絵はいろいろな気持ちを表現できるし、文字が書いていなくても、相手に何かを伝える事ができます。大人になって私の描いた絵が売れるようになったらいいな、と思っています。そうしたら、世界中の困っている人や、子どもたちのために食料や文房具、日本のおもちゃを送ってあげたいものです。そして、日本の文化についてたくさん知ってもらえたらうれしいことです。

（小5・M・F）

高等学校合格に感動

私の夢は、日本の高校を卒業して外国の大学に行くことです。

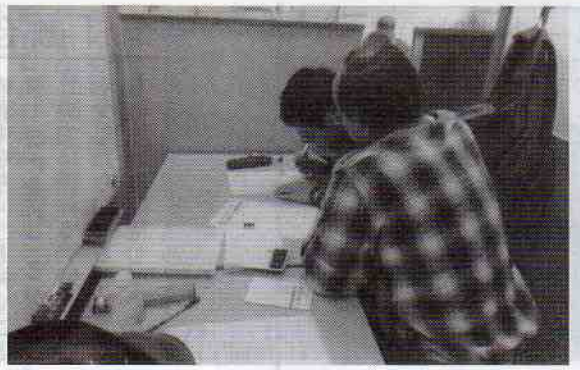
私は、平成23年中学2年生の時、パキスタンから母の国である日本に来ました。

私が最初にがんばりたいと思ったことは、日本語の読み書きです。日本語の読み書きができればほかの教科も楽しく勉強できるし、高校受検も大丈夫と思ったからです。

その受検に向けて、母・日本語指導の先生・NPOの先生たちが、いつも真剣に勉強を教えてくれました。

私は高校を合格した時、とても感動しました。夢に一歩近づいたと思いました。

（中3・B・S）



自立へ向かって・・・

小4の息子は一見障害があるようには見えませんが、発達障害の特徴を持っています。言葉の意味がわかっていても、周囲の状況や物事の流れを把握する事が苦手で、触られる事を嫌がるためコミュニケーションや対人関係、生活上の困難さがあります。小3の娘も息子同様、発達障害があり、注意を持続させ、聞いた事を記憶する事や、同時に二つ以上の事柄に取り組む事が苦手で、自分の考えや困っている事をうまく伝えられずパニックを起こしてしまう事があります。そんな2人は、学校の先生や友人になかなか理解してもらえずに、心ない言葉や嫌がらせに傷つき、不登校になりました。みんなが当たり前にできる事がなかなかできない2人ですが、サポートセンターに通い始めて2か月、声かけをしなくても自ら勉強に取り組むようになり、今まで「できない」とあきらめていた事にもチャレンジするようになりました。自立へ向かって少しずつ歩み出したように思います。サポートセンターは居場所であり、修行の場です。先生が書いてくださる連絡帳を拝見すると、学習内容やセンターでの様子がよくわかり、家庭の中で2人と接する上でも参考になります。

これからも、温かいご指導をよろしくお願いいたします。

（小4・5母・M・H）

目標をもって努力

ぼくは、サポートセンターがなかったら今も、学校に行っていなかった。理由は、小学校でいじめられていたからだ。友達もいなかった。僕は、学校にいるだけで辛かった。耳が突然聞こえなくなることがあった。

そんな時味方が誰もいないと思った。でもそんな時ぼくは、サポートセンターに来ていた。ここなら自分の話を聞いてくれる先生がいた。僕にとっては、心の居場所だった。ときどきこころのふれあい活動に参加した。

この活動では、僕みたいな思いをした人たちと仲良く語ったりした。僕にとって大事な行事だ。勉強も、わかりやすく教えてくれる。もし僕が大人になったら先生たちに恩返ししたいと思う。恩返しは将来僕がなりたい夢を実現することである。それには目標をたて、努力するのだ。

（中1・I・Y）

雲はのんびり屋

青木　空

雲は、のんびり屋だ
いつも、ゆっくり動いてる
雲は、気ままだ
いつも、行きたいとこに行っている
雲は、友達がいっぱいだ
いつも、仲良く仲間と話したり・・・
くっついたりしてる
でもたまに、風に吹かれると・・・
いつも変なとこまで飛ばされる
雲が怒ると、雷が落ちてくる
雲が泣くと、雨が降る
雲も、僕たちと同じ感情がある
でもやっぱりのんびり屋なのは、変わらない

（中1・S・Y）

待っています！

国民栄誉賞を受けた松井秀喜さんの著書から抜粋します。

彼は甘い物が大好きで和菓子やケーキ、アイスクリームは大好物だそうです。アメリカには甘いお菓子がたくさんあるのですが食べていたら体重が増え、体重が増えるとケガが増えるので甘い誘惑に負けないようにしたそうです。

母校の星稜高校練習場には次のような言葉が掲げられていて、今も自分の心の中で輝く言葉になっているそうです。

『心が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる』

さあ、春です。新しい出発の時期です。『継続は力なり』皆さんの来所を待っています。

（サポーターN・G）

教育相談活動についてのご案内

「学業不振で学習に対する意欲を持てない」「登校できなくなった。このままでは高校への進学も難しい。不安と焦りで勉強が手につかない。」「発達上の課題があり、特性に応じたきめ細かな支援が必要」等々、さまざまな支援を求めて大勢の子どもたちや保護者がサポートセンターを訪れます。

このような不適応状態にある児童生徒に対して、当サポートセンターでは、個別に学習支援を行っています。

昨年度、通所を続け、登校支援、学習支援等を受けた児童生徒は、71人でしたが、一人ひとり、それぞれに学びの意欲を高め、着実に力をつけてきています。

不登校の状態にあった中学3年生32人のうち、29人が高等学校に進学することができました。

学習支援を受けたいサポートセンターを見学してみたいという気持ちのある方は、まず相談の申し込みをしてください。

相談受け付けは、教育活動総合サポートセンター宮ノ下事務所で行っています。

・電話受付　月～金、
　9時00分～17時00分
　（土日曜、祝日は除く）
・所在地
　〒213－0033
　川崎市高津区下作延5－11－8
　TEL044－877－0553
（相談・適応部長　本間千尋）

「こどもサポート南野川」

宮前区の「こども包括支援事業」として設置された「こどもサポート南野川」は、今年度5年めを迎えました。恵まれた自然環境と支え励ましてくださる関係の方々のご尽力で、年々活動を充実・発展させることができています。

明るい日差しとさわやかな風、畑や木々の緑の中に日々子どもの歓声が溢れています。

0歳から18歳までの子どもの居場所という創設期の理念を継続しつつ子どもに寄り添っていきたいと思います。

大山街道ふるさと館

川崎市の指定管理団体として、公益財団法人川崎市生涯学習財団と連携しながら展示事業や・講演・講座事業、貸し館事業を展開しています。講演・講座事業では、本年度も大山街道ゆかりの史跡や歴史を、様々な史料や人々の生活の足跡等から探求していく予定です。

展示事業では、当館利用の団体の皆様に寄る作品披露も引き続き実施する予定です。また、小学生による「子ども大山街道探検クラブ」では、街道発見学習を実施します。

「融合」について思う

教育をめぐり、国は平成8年にそれまでの「学校と社会の連携」を一歩進め「学社融合」を提唱した。その後、青少年による犯罪やいじめなどの背景から、地域全体で学校教育を支援する学社融合事業が展開し、地域や教室に地域の教育力が発揮されている。

地域の力は、小学生の登校時のキッズガードに始まる。登校意欲の低い子どもの背中をちょっと押すことで、前に進むことがある。公園では群れて喫煙している少年たちがいると「君たちに地域は期待しているんだよ」の意を込めて言葉をかける。また遊びといいながら暴行を加えている場面を目にすれば、その場で「きみたちのやっていることは、いじめだ」と指摘する。不登校の子どもがいれば、地域の子どもとふれあえる場をつくる。地域での家族支援には、福祉を含めた生活支援の要素も欠かせない。民生委員を通じ必要な情報を提供する。

私は日々の経験から「教育・福祉・社会の融合」とは、各々の役割分担を前提に、双方が求めかつ可能な要素を重ね合わせながら、一体となり子どもの健全育成にかかわることではないかと思う。

（研究課長　石原由美子）

「こどもサポート川崎」

生活保護世帯の学習支援・居場所づくり事業として、24年度10月から始まりました。参加生徒は中学3年生13人で、週2日学習サポーターと1対1で学習をしています。

入試に向けた学習が中心でしたが、休み時間や終了後のレク交流を通して、学習サポーターや生徒同士の横の関係もでき、居場所としての楽しみもできています。

「勉強がわかって、楽しくなった」など、一定の成果をあげることができました。

こどもサポート（田島）・幸

学習支援・居場所づくりを目指し、10月18日に『田島教室』を開設。最終的には19人の中学3年生が集まり、個別指導による学習を展開。

どの生徒も学習に自信がないと訴えていたが、日を追うにつれ学習意欲が増し、宿題をこなし、課題の要求まで出る状態。その成果は全員の進路先決定として現れた。

集団学習で生じた聞き漏らしなどの改善のゆえか？

さらなる改善を試み、『幸教室』の開設に望みたい。

こどもサポート旭町

開設3年めの平成24年度は、登録者数の増加、こどもの生活力、登校力に大きな変容を見ることができました。

これは、本所の必要性・要求度の高まりと同時に、スタッフの創意ある教育福祉活動が実を結んだものと思います。

これら、3年めのこどもの変容、成長の検証は、4年めの平成25年度、開所日2・5日から3日へと拡大することになりました。

充実した活動で日々、こどもたちを育んでまいります。

編集後記

24年度も活動会員・賛助会員をはじめ多くの皆さんのご理解とご支援によってサポートセンターの全ての事業が滞りなく終了しました。誠にありがとうございました。

貧困の連鎖を断ち切るという願いで始まった川崎市学習支援・居場所づくり事業。その話し合いの中で、関係機関から家庭訪問に行った際に、不登校の子どもの対応に苦慮している。教育の力を借りたいという話があった。

まさに、サポートセンターの出番である。24年度の文科省委託研究のサブテーマ「福祉と教育の融合に向けて」の貴重な実践となるであろう。

（事務局次長　本告）